

学校運営協議会 第4回会議 議事録

日 時：令和6年2月15日 10:00～12:00

場 所：浜松湖北高校 佐久間分校会議室

出席者：委員 熊井大介 様 校長 大澤 貢
 委員 大見拳也 様 副校長 佐藤 敦
 委員 坪井俊介 様 教 頭 奥村友介
 委員 遠藤睦子 様

【開会】

1 校長挨拶

2 議事

(1) 佐久間分校の近況について

〔事務局説明〕 在籍人数、生徒募集について
 進路実績、生徒の様子について

《委員質問・意見》

- ・共通テストを経て国立大学へ合格した生徒がいるのは、手厚い指導を行っているからだと思う。学校での指導があっても、それらを消化できない生徒がいる場合もある。
- ・志願者が減少傾向であるがどんな原因が考えられるか。
 (事務局)全国的な流れであるが、広域通信制高校への希望が増加していると思われる。また、授業料無償化の影響により私立高校への希望が増加しているようだ。中学校訪問等をする中で、分校の特長については理解していただいていると思う。集団生活が苦手な子供が「人と関わりたくない」との理由で通信制高校を希望するという話を聞くこともある。コロナ禍の影響が大きいのではないか。
- ・通信制高校が当たり前になりつつある。「大学に行ければよいので通信制にする」と考える生徒もいるようだ。ここ何年かで状況が大きく変わってきていると思う。
- ・志願者を確保するには、文化祭などの分校の良い雰囲気アピールしていくしかないのではないかと思う。

(2) 令和5年度学校経営報告書関係者評価について

〔事務局説明〕 生徒・保護者アンケートについて
 自己評価について

《委員質問・意見》

- ・「授業が分かる率」95%以上はかなり高い設定と思われるが。
 (事務局)目標はこれまでの数値も踏まえ、学校で設定している。
- ・「学校生活から嫌なことを無くそうアンケート」はどんなものか。
 (事務局)いじめがあるかどうかの調査である。早期発見に努めている。今のところ問題となるものはない。

- ・ホームページやInstagramの更新はだれが行っているのか。
(事務局) 教員が行っている。フォロワーは保護者や分校に興味を持つ方々であると思われる。
- ・地域学の内容を生徒自ら情報発信・アピールさせてはどうか。その過程で生徒自身が地域や分校をしっかりと知ることにも繋がるのでは。
(事務局) 学校設定教科「地域」は地域の課題解決を考える教科であり、広報戦略を考えることは、よい学びになると思う。
- ・読書は、デジタル版等もあり様々な形で行われているため、冊数のカウントが適切かどうか検討したほうが良いのではないかと。
- ・読書冊数を増やす努力としては、生徒の興味に応じた本の紹介をするとよいと思う。
- ・経営目標中の業務改善に関する指標を再検討してはどうか。先生方が生き生きと活動しているかどうか分かる指標があると良い。
(事務局) 県教委がストレスチェックを実施している。
- ・校内Webサイトとは何か。
(事務局) 生徒がシラバスや進路情報を見ることができるものである。印刷等の手間を省くことができるのが利点であるが、逆にICTが負担になる面もある。昨年度末に立ち上げたばかりであるため慣れていない面もある。
- ・中学校教員との交流はどうか。
(事務局) 中学校の状況が分かり、分校教員にとって参考になっている。
- ・佐水地区だけでなく、他地区の中学校と交流ができる枠組みを作ってはどうか。
(事務局) 年間を通して定期的に交流する枠組みを作るのはなかなか調整が難しいが、分校の生徒が多様な人々と交流する機会の創出に努めていきたい。
- ・他校と連携して生徒募集を行えばよいのでは。経費削減にもつながると思う。例えば天竜区内の高校で協力体制を作るなど。
- ・いろいろなところで発表を行う機会があつて良いと思う。
- ・保護者の記述意見を見ると相反する意見も見て取れるが、受け止め方が人それぞれだと感じる。
(事務局) 多くの方に満足してもらえよう、引き続き努力する。
- ・デジタル教科書は使用しているか。
(事務局) デジタル教科書は使っていない。
- ・BYODではどのような端末を使用するのか。
(事務局) BYODについては学校でスペックを指定している。該当していれば家庭にある機器を使うことは可能である。

【閉会】